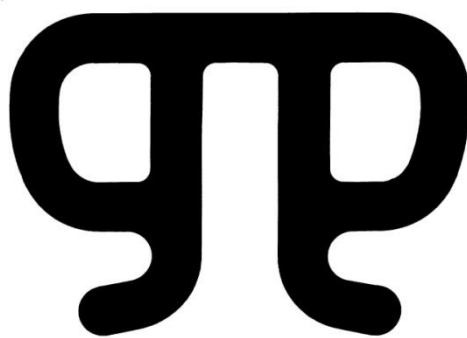


平成31年度

学校教育計画



大阪府立茨木高等学校

■■■ 目 次 ■■■

1 学校教育活動の方針	1
各方針	2
（1）学習指導の方針	
（2）特別活動の方針	
（3）道徳教育及び生徒指導の方針	
（4）進路指導の方針	
（5）人権尊重の教育の方針	
（6）健康管理と指導の方針	
（7）学校組織の運営方針	
（8）教員の研修方針・研修計画	
北辰プロジェクト、各学年の目標	3
各分掌等の目標	7
各教科の目標	10

1 学校教育活動の方針

めざす学校像

【学校像】

「高い志」を持ち、「真のリーダーシップ」を発揮しながら世界で活躍する人物を輩出する学校。

【生徒に育みたい力】

- 基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、「高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。
- ハイレベルな授業を通じて進路実現を可能にする高い学力を養成すると同時に、学校行事や部活動への積極的な参加を奨励し、たくましい人間力を育成する。
- 知的探究心をもって自主的に学習する力を養成すると同時に、互いに協力しつつ切磋琢磨することを通じて、優れたチームワーク意識と高い自治能力を育成する。

中期的目標

グローバルリーダーズハイスクールとしての特色づくりのため、3つの教育目標を深化させる取組みとともに教員の授業力向上のための取組みを実践する。

- 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築
- 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築
- 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築
- 教員の授業力向上のためのシステムの構築

平成31年度「学校経営計画」より

各方針

(1) 学習指導の方針

「高い志の涵養」のために、知識・技能の十分な習得はもちろんのこと、課題を発見し、探求し、解決する力などを含む「自ら学ぶ力」を生徒に獲得させる取組みを推進する。授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための教科目標を立て、実施する。

(2) 特別活動の方針

自らの意思で決定したことに責任を持ち、常に高い水準に挑戦することを通して、優れたリーダーシップを持った生徒の育成をめざす。学校行事・生徒会活動・部活動などを通じ、自由と責任の明確な認識を徹底する。

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

「志学」の実施を通じて、豊かな人間性と社会についての理解や健全な批判力を養う。
「自主・自律の精神」の基盤となる規範意識を醸成する。
それぞれの学年、発達段階に応じて、生徒に寄り添う指導を基本とする。

(4) 進路指導の方針

生徒が高い志を持ち続けながら自主的に進路選択・決定できるように、高校生活3年間を通じた進路指導を行う。
大学との連携を図り、学問へのモチベーションを高めると共に、発展的な学習を提供する。

(5) 人権尊重の教育の方針

「他者への理解」が切望されている今、クラス内、校内での生徒の相互理解にとどまることなく、広く深い「多様性受容力」を育む。

(6) 健康管理と指導の方針

生徒保健委員会、部活動支援（スクールトレーナー）事業などを通じ、生徒各自の保健意識を高める。各クラス担任、部顧問等が各所属生徒の健康状態を把握し、常に注意を払うとともに、保健部、学校医との連絡を密にし、早期に異常を発見し的確な対策がとれるように努める。

(7) 学校組織の運営方針

首席・運営委員・SSTPT等を核として、意欲と活力に満ちた教職員による組織的学校運営を推進し、学校力の充実を図る。

(8) 教員の研修方針・研修計画

各部、各委員会において、指導方針・教育目標・計画を明確にし、年に数回の研修を行い、全教職員の共通理解を深め、企画、実践、分析、評価のサイクルを確立する。
教育センターにおける研修や各種研究会に努めて出席し、その成果を校内研修に反映する。講師を随時招聘して、研修の充実を図る。

74期 北辰プロジェクト

学年	期	リーダー育成	学力向上		進路実現		会議、PTA関係、その他
		人間力	幅広い教養と確かな学力		将来構想力		
		行事	カリキュラム(探求)	定期考査等	実力・模擬テスト	進路行事	
		理数探究系	人文社会国際系				
1年	I	新入生オリエンテーション 入学式 前期執行部役員選挙 遠足	IBARAMA I (情報領域)			スタディサポート①	進路指導会議①
		スプリングセミナー 分水嶺 ①茨高生になる ～進路意識と学習への目的意識を持つ～ 京都大学での研修<大学の先生による記念講演とグループ討論・施設見学>					
	個人面談 宿泊野外事前学習 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭		前期第1中間考査 前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査		全国模試① 英語外部資格検定 アセスメントテスト	京大ELCAS 阪大SEEDS 学問発見講座① 大学研究室訪問① (東京スタディツアー) 海外研修セミナー オープンキャンパス 進路希望調査①	PTA学年総会① 学級懇談会① 保護者向進路講演会①
	文化祭 芸術鑑賞 後期執行部役員選挙 宿泊野外事前学習 B&Sプログラム リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラムⅠ 妙見夜行登山 音楽会/美術・書道科作品展 春休み	2年次科目選択説明会 科目選択	後期中間考査 宿題考査 後期期末考査		校内実力考査① 全国模試②	卒業生講座① 大学研究室訪問②	PTA学年総会② 三者懇談①
2年	III	新入生オリエンテーション 前期執行部役員選挙 遠足 個人面談 芸術鑑賞 宿泊野外行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭	課題研究テーマ選択 IBARAMA I (情報領域) 3年次科目選択説明会	宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査	スタディサポート② 全国模試③ 全国模試④	京大ELCAS 阪大SEEDS 学問発見講座② 大学研究室訪問③ (東京スタディツアー) 海外研修セミナー オープンキャンパス 進路希望調査②	保護者向宿泊野外説明会 進路指導会議② PTA学年総会③ 学級懇談会②
		オータムセミナー 分水嶺 ②受験生になる ～自分を見つめなおし、将来に向かって加速する～ 課題研究開講式 <様々な分野で活躍している研究者による講演>					
	文化祭 後期執行部役員選挙 人権行事 リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラムⅡ 妙見夜行登山 音楽会/美術・書道科作品展 春休み	IBARAMA II (課題研究) 科目選択 GLHS10校課題研究発表会 校内課題研究発表	後期中間考査 宿題考査 後期期末考査		校内実力考査②	卒業生講座② 大学研究室訪問④	保護者向進路講演会② 三者懇談② PTA学年総会④
3年	V	前期執行部役員選挙 遠足 個人面談 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭		宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査	スタディサポート③ 校内模試① 全国模試⑤ 校内模試②	進路希望調査③ 学問発見講座③ 総合型選抜(AO入試)	進路指導会議③ 保護者向進路講演会③ PTA学年総会⑤ 学級懇談会③ 三者懇談③
	VI	後期執行部役員選挙 冬休み 美術・書道科作品展 音楽会 卒業式	3年土曜講習	前期期末考査 後期中間考査	校内模試③	卒業生講座③ 進路希望調査④ 学校推薦型選抜 (推薦入試) 大学入学共通テスト 一般選抜(一般入試)	PTA学年総会⑥

校内実力考査・外部模試・英語外部資格検定試験等については、状況をみて追加、変更の可能性あり

73期 北辰プロジェクト

学年	期	リーダー育成	学力向上		進路実現		会議、PTA関係、その他
		人間力	幅広い教養と確かな学力		将来構想力		
		行事	カリキュラム(探求)	定期考査等	実力・模擬テスト	進路行事	
		理数探究系	人文社会国際系				
1年	I	新入生オリエンテーション 入学式 前期執行部役員選挙 遠足	IBARAMA I (情報領域)			スタディサポート①	進路指導会議①
		スプリングセミナー 分水嶺 ①茨高生になる ～進路意識と学習への目的意識を持つ～ 京都大学での研修<大学の先生による記念講演とグループ討論・施設見学>					
	個人面談 芸術鑑賞 宿泊野外事前学習 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭		前期第1中間考査			京大ELCAS 阪大SEEDS	PTA学年総会① 学級懇談会①
	文化祭 後期執行部役員選挙 宿泊野外事前学習 B&Sプログラム リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラムⅠ 妙見夜行登山 音楽会/美術・書道科作品展 春休み	2年次科目選択説明会 科目選択	前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査	全国模試①	学問発見講座① 大学研究室訪問① (東京スタディツアー) 海外研修セミナー オープンキャンパス 進路希望調査①	保護者向進路講演会①	
II	文化祭 後期執行部役員選挙 宿泊野外事前学習 B&Sプログラム リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラムⅠ 妙見夜行登山 音楽会/美術・書道科作品展 春休み	2年次科目選択説明会 科目選択	後期中間考査 宿題考査 後期期末考査	英語4技能 資格検定試験模試 全国模試②	卒業生講座① 大学研究室訪問②	三者懇談① PTA学年総会②	
	III	新入生オリエンテーション 前期執行部役員選挙 遠足 個人面談 芸術鑑賞 宿泊野外行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭	課題研究テーマ選択 IBARAMA I (情報領域) 3年次科目選択説明会	宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査	スタディサポート② 全国模試③ 校内実力考査① 全国模試④	京大ELCAS 阪大SEEDS 学問発見講座② 大学研究室訪問③ (東京スタディツアー) 海外研修セミナー オープンキャンパス 進路希望調査②	保護者向 宿泊野外説明会 進路指導会議② PTA学年総会③ 学級懇談会②
オータムセミナー 分水嶺 ②受験生になる ～自分を見つめなおし、将来に向かって加速する～ 課題研究開講式 <様々な分野で活躍している研究者による講演>							
IV	文化祭 後期執行部役員選挙 人権行事 リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラムⅡ 妙見夜行登山 音楽会/美術・書道科作品展 春休み	IBARAMA II (課題研究) 科目選択 GLHS10校課題研究発表会 校内課題研究発表	後期中間考査 宿題考査 後期期末考査	校内実力考査②	卒業生講座② 大学研究室訪問④	保護者向進路講演会② 三者懇談② PTA学年総会④	
	V	前期執行部役員選挙 遠足 個人面談 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み 体育祭		宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査	スタディサポート③ 校内模試① 全国模試⑤ 校内模試②	進路希望調査③ 学問発見講座③ 総合型選抜(AO入試)	進路指導会議③ 保護者向進路講演会③ PTA学年総会⑤ 学級懇談会③ 三者懇談③
VI		後期執行部役員選挙 冬休み 美術・書道科作品展 音楽会 卒業式	3年土曜講習	前期期末考査 後期中間考査	校内模試③	卒業生講座③ 進路希望調査④ 学校推薦型選抜(推薦入試) 大学入学共通テスト 一般選抜(一般入試)	PTA学年総会⑥

校内実力考査・外部模試・英語4技能検定試験等については、状況をみて追加、変更の可能性あり

72期 北辰プロジェクト

学年	リーダー育成		学力向上		進路実現		会議, PTA関係, その他	
	人間力		幅広い教養と確かな学力		将来構想力			
	行事	カリキュラム	定期考査等	実力・模擬テスト	進路行事			
		普通科	文理学科					
1年	I 期	新入生オリエンテーション 前期執行部役員選挙 遠足, スポーツテスト	社会と情報 TOEFL プラクティス仮登録	IBARAMA I			スタサボ①	進路指導会議①
	スプリングセミナー 分水嶺 ① 茨高生になる							
	II 期	個人面談 宿泊野外事前学習 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み [体育祭]	TOEFL Stage I		前期第1中間考査 前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査	全国模試①	京大 ELCAS 阪大 SEEDS 海外セミナー 京大マカール 学問発見講座① 大学研究室訪問 東京メディア オープンキャンパス 進路希望調査①	PTA 学年総会① 学級懇談会①
	III 期	[文化祭] 後期執行部役員選挙 B&Sプログラム 宿泊野外事前学習 リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラム I 妙見夜行登山 春休み	教科選択説明会 科目選択 課題研究テーマ選択 TOEFL Stage II		後期中間考査 宿題考査 後期期末考査	全国模試② 全国模試③ TOEFL プラクティス I①	阪大マカール 大学研究室訪問 卒業生講座① 京大マカール オープンキャンパス	成績等連絡会議① 教科担当者会議① 三者懇談① PTA 学年総会② 成績等連絡会議②
	IV 期	新入生オリエンテーション 前期執行部役員選挙 遠足, スポーツテスト 個人面談 芸術鑑賞 宿泊野外行事 リーダー育成プログラム 夏休み [体育祭]	総合 TOEFL Stage III (English in Action) 科目選択説明会	IBARAMA I	宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査 宿題考査 前期期末考査	スタサボ② 全国模試④ 校内実力考査① 全国模試⑤	京大 ELCAS 阪大 SEEDS 海外セミナー 京大マカール 大学研究室訪問 東京メディア オープンキャンパス 進路希望調査② 学問発見講座②	進路指導会議② PTA 学年総会③ 学級懇談会② 成績等連絡会議③ 教科担当者会議② 保護者向進路講演会②
	オータムセミナー 分水嶺 ② 受験生になる							
2年	V 期	[文化祭] 後期執行部役員選挙 B&Sプログラム 人権行事 リーダー育成プログラム 冬休み 英語イマージョンプログラム II 妙見夜行登山 春休み	TOEFL Stage IV		後期中間考査 宿題考査 後期期末考査	阪大マカール 大学研究室訪問 卒業生講座② 京大マカール オープンキャンパス	三者懇談② PTA 学年総会④	
	VI 期	課題研究発表会 校内課題研究発表			TOEFL プラクティス I②		成績等連絡会議④	
	III 期	前期執行部役員選挙 遠足, スポーツテスト 個人面談, 芸術鑑賞 人権行事 リーダー育成プログラム 夏休み [体育祭]	TOEFL Stage V Communicative Activity		宿題考査 前期第1中間考査 前期第2中間考査	スタサボ③ 校内模試① 全国模試⑥ 校内模試② TOEFL プラクティス I③	進路希望調査③ 学問発見講座③	進路指導会議③ 保護者向進路講演会③ PTA 学年総会⑤ 学級懇談会③ 三者懇談③ 成績等連絡会議⑤
3年	IV 期	後期執行部役員選挙 冬休み		前期期末考査	校内模試③	進路希望調査④ 卒業生講座③ センター出願	成績等連絡会議⑥ PTA 学年総会⑥	
	V 期	卒業式	[3年後期工曜講習]	後期中間考査	センター試験 個別試験			

各学年の目標

1年生（74期）

- ① 中学までの受身の学習から脱却し、自ら課題を設定し遂行できる能力を獲得させることを当面の目標とする。そのために予習（次の授業内容の予想を立てて取り組む）と復習（授業内容が理解できているのかを自らで確認する）を毎日当たり前のルーティンとして習慣化できるよう指導する。家庭学習の時間は1日2時間を目標とする。
- ② 多くの情報を収集し、有用な情報の内容を的確に掴み、広くかつ深い知識を身につけられるよう、授業を通じて多様な刺激を与えるとともに幅の広い読書を奨励する。
- ③ HR活動を中心に、集団としての規律を保つ意識と、他者に対する寛容の精神を醸成し、その基盤に立って、多くの生徒が様々な場面で自立心と責任感を持って他の生徒を引っ張りまとめるリーダーの役割を果たせるように育てていく。
- ④ 上級学年においてしっかりとした進路意識を持つことのできるように、第1学年から、自己実現への意識を持たせるとともに、社会と自己の関わりについて考えさせる。高大連携をその契機の一つとして活用するように指導する。

2年生（73期）

- ① 1年次に生徒達が獲得した高等学校における学力の基盤の上に、確固とした学力の積み上げを図る。そのために、同時に高校卒業後の自分の生き方についてのビジョンを育むことに重点を置き、それぞれが自己実現のために今しなければならないことを自覚させ、それを着実に実行する習慣を育む。
- ② 生徒達が部活動、学校行事の場面において求められる運営の手腕やそれに伴う社会的な責任感、集団の中で協同する力を育む。
- ③ カンボジアへの宿泊野外行事を通し、異文化に対する理解を深め、国際社会への視野を広げる。その上で、今後の学習の糧になるよう日本の高校生としての自覚を育む。

3年生（72期）

- ① 自らの希望を実現する「高い志」を持ち、自分を見つめなおした上で社会生活の礎となるような真の学力を身につけようとする姿勢をいっそう育む。
- ② 勉学の環境を整え、周囲に配慮しながら状況に応じた行動をとるなどといった態度を養い、他者を互いに尊重しながら学校生活の中で共に高めあおうとする気持ちをいっそう育む。
- ③ 茨木高校の伝統をふまえ、体育祭などの行事における企画力・運営力・指導力・調整力を養い、集団としての力や質を高めようとする意識をいっそう育む。

各分掌等の目標

教務部

1. 学習指導の方針

知識・技能の十分な習得はもちろんのこと、課題を発見し、探求し、解決する力などを含む「自ら学ぶ力」を生徒に獲得させる取組みを推進する。

2. 本年度重点となる教育目標・計画

(ア) 授業力向上の取組みと並行して、生徒の「自学自習の習慣」定着に取り組む。

- ・ 課題を発見する場としての予習、その課題を探求・解決する場としての授業、そして概ね解決し得たことにさらに習熟するとともに新たな課題を発見する場としての復習、という自学自習の円環を確立するように指導する。
- ・ 生徒自身が定期考査の結果を分析したうえで、自学自習が機能しているかどうかを診断し、必要に応じて見直しを行うように指導する。
- ・ 継続的な取組みとして、自学自習環境の整備等、様々な支援方策について検討し実施する。

(イ) 教育課程について、普通科・文理学科ともにグローバル・リーダーズ・ハイ・スクールにふさわしいより高い水準の学力に到達させることを目指すべく、必要な方策について検討し実施する。

生徒部

1. 基本的な考え方

(ア) これまで受け継がれてきた「自主・自律・自治」の育成を基本とする。

(イ) それぞれの学年、発達段階に応じて、生徒に寄り添う指導を基本とする。

2. 具体的な指導

(ア) 生活指導

- ・ 自主・自律の基本となる「自らに対する厳しい“生活管理”、“時間管理”」を求めるとともに、規範意識の向上をめざす。

(イ) 生徒会指導

- ・ 生徒会執行部、各 HR 委員会の指導を中心として、自治を育む。
- ・ 地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神の育成を目指す。

(ウ) 部活動指導

- ・ 課外活動としての部活動が意義深いものになるよう支援する。
- ・ 各クラブの部長、リーダーを対象として、リーダー育成プログラムⅠの実施を支援する。
- ・ 部員を対象としたリーダー育成プログラムⅢの実施を支援する。

(エ) 教育相談

- ・ 生徒にとって有効に機能するよう、主導的な役割を果たす。
- ・ 生徒部内の一係りの業務とせず、全校的、組織的に取り組む。

(オ) 奨学金

- ・ 奨学金について、適正な広報と啓発をおこなう。

進路指導部

進路指導について、学年毎に目標を設定する。

1年

茨木高校での3年間を充実したものにする、基礎的生活習慣・学習習慣の形成・確立をはかる。
自己を見つめ、自分の個性をいかに伸ばすかを模索する中で高い志を持つ。
どのような生き方をを目指すのか、そのために何をどう学び、それをどう活かすのかについて、広い視野を持ち探究する。

2年

学校行事や部活の中心となりそれらを主体的に動かす中で、社会人基礎力を高める。
自らの理想とする生き方と志望学部・学科や志望校を明確化していく。
日々の学習を大切にしながら、入試突破力育成に向けての取り組みを始める。

3年

目標達成への強い意志と確固とした見通しを持つ。その上で進路HR・校内模試や外部模試を指標として着実に努力を積み重ね、希望進路を実現する。

保健部

保健指導等

- (ア) 定期健康診断の綿密な事後指導。特に要配慮生徒については、学校医の指導のもと専門医の受診を勧める。
- (イ) 保健室での健康相談の随時実施、「保健だより」の発行を通じての保健学習の推進。
- (ウ) 定期的な安全点検や学校薬剤師による衛生検査を踏まえた環境整備の推進。
- (エ) 生徒保健委員会の専門部会（環境衛生・清掃・広報）の活動支援。
- (オ) 生徒を主体とする校舎内外の清掃・美化の推進。
- (カ) 災害発生時の避難訓練等を通じての安全教育の推進。
- (キ) 学校保健委員会の複数回実施。

図書部

図書部の活動計画

- (ア) 定期的に蔵書点検を行い、学習・教養両面の必要性に対応できるように蔵書の更新・充実に努める。
- (イ) 図書室を資料センターとしても位置づけ、教育課程を踏まえた資料の選択・収集・整備・組織化をすすめ、教員・生徒への資料提供の便をはかる。
- (ウ) 学年による読書指導への協力、推薦図書の展示案内等、生徒の読書活動を支援する。
- (エ) 生徒図書委員を通じて生徒の要望に積極的に応えとともに、図書館報（「らふれしあ」
「Compass Rose」）の発行、書籍展示等、生徒の自主的かつ文化的な活動を支援する。
- (オ) 読書感想文の作品募集、及び青少年読書感想文コンクール・人権作文コンクールへの応募を通して、読書活動の一層の活性化をはかる。
- (カ) 視聴覚機器の整備をはかる。
- (キ) 学校HP広報のための記事の収集など、掲載に関わる作業を行う。
- (ク) 芸術鑑賞行事の企画、運営を行う。

人権教育推進委員会

1. 本年度の達成目標

国際社会において次代を担う生徒たちに対して、多様な価値観を認める感性を磨くとともに、人権意識に根ざした社会貢献力を育成する。

他者や異文化への相互理解を深めるためには、背景にある歴史や現状分析などの知識を持たせるだけでなく、HR活動や行事を通じての具体的な実践が不可欠である。昨今の国際社会を鑑みるに、「他者への理解」が今ほど切望されている時代はない。学校内での理解にとどまることなく、広く深い「多様性受容力」を育む。

人権学習の充実のために次の点に留意する。

(ア) 生徒の現状と問題意識を的確に把握

1年生には、人権教育アンケート（2013年全面改訂）を実施し、小・中学校での人権学習や入学してからの生活実態、人権学習についての意識や要望を把握する。また、過去のアンケート調査のデータを集約した「理解度の低い人権用語の解説（2019年部分改訂）」を配布する。

(イ) 適切なテーマ設定

大きな目標の中から、各学年の要望に沿うように具体的なテーマ設定をする。

(ウ) タイムリーな学習機会の提供

各学年は、教科学習との関連を視野にいたしたテーマを設定する。生徒の状況に応じた学習となるように事前学習を設定し、人権講演会の講師の方々にもアドバイスをいただく。

(エ) 学習形態の工夫

生徒の人権委員が中心になって運営・実施に当たる人権学習にする。

(オ) 担任との連携・職員研修の充実

担任団との連携を強め、各学年の人権行事が有意義なものになるよう努めるとともに、職員研修（本年度のテーマは「自殺に対する認知と自殺予防」）を実施し充実をはかる。

(カ) 3年間を通してPDCAサイクルを活用し、学習の成果を検証し次年度につなげる。

2. 人権教育計画

年間テーマ設定：今までの実績を活用し、学年の要望を実現するように定める。3年間で異なった側面から人権問題を考える機会を提供できるように留意する。

1年：命について考えよう

スポーツ中の突然死で我が子を亡くした後、一時救命措置の重要性を訴える活動をしている前重壽朗・菜緒ご夫妻を講師に招き、命の大切さを考える。事後学習で個々の生命を尊重する社会のあり方についても意見交換する。

2年：環境と人権問題（予定）

世界中で地球温暖化の進行や異常気象の発生頻度の加速が懸念される中で、講師のス・チンプ氏から、環境破壊により引き起こされる人権問題について学ぶ予定である。国外の出来事についても目を向けることで、講演会における学びの充実をめざし、事前学習にも取り組む。

3年：在日外国人について考える

ヘイトスピーチ問題や外国人材受け入れの拡大など、在日外国人といかに共生していくかが問われる現在、講師に朴一氏を迎えて、日本社会の人権問題として共生の在り方を考える。3年間の総まとめの学習になるように取り組む。

各教科の目標

国語科

本年度の目標

1. 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み
 - ・読書指導の強化・・・推薦図書を生徒に提示し、感想文や要約文に取り組みさせる等の読書指導を通して、国語学習の基盤を充実させる。
 - ・表現力の育成・・・日常的に自分の考え等を文章化させ、発表させる機会を設ける。
 - ・教科内学習会の充実・・・
昨年度に引き続き、定期的に入試過去問題検討会や読書会、授業見学を
行の充実、教科指導力向上に努める。

2. 取組みの効果を測定する方法、目標など
 - ・大阪府読書感想文コンクール・人権作文コンクールに向けて校内選考を行い、優秀作品を応募する。入賞作品も含め、優秀な作品を校内で紹介する等、生徒間で他の生徒の文章に刺激を受けることができるようにする。
 - ・生徒の書いた文章に対して適宜、添削・コメントを付け返却し、また他の生徒にも紹介する。

授業公開・・・校内で実施している公開授業と同時期に行う。

研究授業・・・同学年の担当者同士の授業見学などを行い、さまざまな形で研究協議を行って授業力向上に努める。

その他の取組み・・・

日常的に芸術に触れたり、共通の作品を読み意見交換したりすることによって教科指導の基盤の充実に努める。

地歴・公民科

本年度の目標

1. 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み
授業力向上に関して、互見授業の活発化、また参観のあとの具体的な意見交換を交えながら、教員相互の切磋琢磨によるスキルアップを目指したい。教科の目標は、生徒との応答を基本にした「考えさせる」授業の実現であり、生徒主体の授業方式を積極的に取り入れたい。
2. 取組みの効果を測定する方法など
 - ・授業力向上のために討議し、授業での工夫や改善点を共有し、各自の授業に生かしていく。
 - ・年度末には、本年度の授業についての検討を科目ごとに行う。
 - ・授業アンケートの結果を参考にして各科目でよりよい授業をめざす。

授業公開・・・2年日本史の授業の一環として実施している茨木市立文化財資料館見学については、保護者等にも公開する。

研究授業・・・6月の教育実習期間は、実習生も含めて互見授業の機会を増やす。
研究授業を実施する。

その他の取組み……………

- ・各教員が手に入れた歴史的遺品等に触れさせたり、教員が実際に撮影した写真や動画などを活用し、生きた授業を目指す。
- ・現代の諸課題をテーマに生徒が考え、生徒同士で話し合い、意見を発表する生徒主体の授業に取り組む。
- ・校内模試の作成では、担当者間でセンター入試問題・二次試験問題・小論文問題を中心に意見交換を行って入試の傾向を分析し、問題の質的向上をはかる。

数学科

本年度の目標

1. 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

- ・共通科目担当で定期考査毎に具体的な目標を設定し、授業内容や題材の吟味・進度の調整を行う。また、生徒の弱点の把握に努め、担当者間で共有する。
- ・校内模試・実力テストの問題設定について編集委員を中心に教科会議を設け、意見交換し、作問能力を高める。
- ・大学入試に対応する力をつけさせるため、3年生対象に授業外で講座を設ける。また、生徒が基礎・基本を習得できるよう、1・2年生については定期考査前に質問会を行うなどのサポートをする。
- ・1・2年生対象に、定期考査上位の生徒には π シールを与えて表彰し、発展的課題を通してよりいっそうの意欲を喚起する。
- ・GLHS教員向けの研修に参加する。

2. 取組みの効果を測定する方法、目標など

バディシステムの活用、授業アンケートによる評価

授業公開・・・学校説明会や公開授業日の機会に合わせて行う。

研究授業・・・適当な時期に研究授業を行う。

その他の取組み・・・京都・大阪数学コンテスト参加への働きかけをする。

理科

物理科

本年度の目標

1. 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

- ・教員間での情報共有を密にし、お互いの工夫点や困っている点を議論・共有し、授業内容の向上を目指す。お互いの授業見学及び討議を行い、授業における問題点の把握と生徒理解向上のために、生徒からの意見集約を適宜行い、授業への改善のヒントとし、工夫した授業で生徒理解度を高める。
- ・自ら学ぶ姿勢および課題解決能力を身につけるため、グループワークやグループ学習、演示実験、生徒実験を適宜授業内に取り入れる。

- ・小テストと宿題を授業の進度などを考慮しながら行い、生徒の理解向上、及び家庭学習の機会をより与える。
- ・問題を共通問題にし、問題作成過程における議論を通じて指導の仕方の共通化と内容の向上に努める。

2. 取組みの効果を測定する方法など

- ・出題の難易度に関係なく引き続き、平均点にこだわらず、センターテストの物理受験者の半分以上を80点以上にする。
- ・2、3年次の物理選択にあたっては本人の能力、適性を的確に把握し、具体的な進路に関わる相談に積極的にに関わり、学部・学科選択などに間違いや後悔のないように指導する。

授業公開・・・保護者に対しては、学校設定の公開授業で行う。

教員に対しては、期間・内容にこだわることなくいつでも公開可能である。同じ科目の教員が少ないため、積極的に授業を見てもらい、意見交換できる形にすることが必要だと考える。他の科目の教員に対しても、学校内の授業互見週間を活用して積極的に公開する。

研究授業・・・教科で少なくとも年1回研究授業を行う。

教育実習生の授業は、なるべく物理教師全員で参観し、各単元における指導ポイントの確認を全員で討論する。

その他の取り組み・・・

- ・地学を通して、他科目のつながりや発展性を知るきっかけとして、1年生を対象に各科目（物理・化学・生物）と地学とに共通するテーマについて各担当教員が講義を行い、グループワークを通してポスター作成を行う理科行事を実施する。
- ・互見授業による授業交流を活性化し、生徒の学びに主眼を置いた討論を活発化する。

化学科

本年度の目標

1. 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取り組み

- ・相互授業見学、授業内容の研究を日常的にする。
- ・実験、考察を通して論理的・科学的思考力の醸成をめざす。
- ・定期考査の問題を共通問題にし、問題作成過程における議論を通じて指導の仕方の共通化と内容の向上に努める。
- ・入試問題を十分に研究しながら指導に当たる。

2. 取組みの効果を測定する方法など

- ・バディシステムの活用、授業アンケートによる評価

授業公開・・・目的：茨木高校化学科の水準維持・向上 時期：茨木高校公開授業をはじめとして適宜行う。 回数：年2回以上 対象：教員，保護者

研究授業・・・後期に教科の研究授業を、理科全体の研究授業として1回以上実施する。

その他の取り組み・・・茨木高校他科目の授業見学 日常的な授業交流と教材研究
理化研究会、研究集会への参加

生物科

本年度の目標

- 1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取り組み
 - ・基礎・基本の充実
 - ・最先端の内容・実学を意識して盛り込み、生徒の学習意欲を喚起する。
 - ・実験・実習の機会をできる限り多く設定し、実物に触れて理解し、好奇心を豊かにもつことを大切にする。実験・実習は1年生で7～10回、2年生で3～5回、3年生で7～10回の実施を計画している。
 - ・プロジェクトや動画教材なども積極的に活用して、わかりやすく講義することにつとめる。
- 2 取組みの効果を測定する方法、目標など
 - ・1年生では、理科に対する興味関心の醸成、実験における基本操作（顕微鏡や試薬の扱い）を確立する。
 - ・2年生では、基礎・基本を習得し、実験などを通じて「考える」姿勢を確立する。
 - ・3年生では、それまでに培った力を発揮し、見通しを持って実験・実習を実施する力を確立する。

授業公開・・・講義・実験を問わず、特定の公開期間を設けることなく、いつでも誰にでも見てもらえるようにしている。

行事予定における公開授業

研究授業・・・教科で少なくとも年1回研究授業を行う予定。

教育実習生の授業については生物科教員が多く参観するようにし、各単元における指導ポイントについて事前事後に協議する。

その他の取組み・・・

- ・本校OB教員や外部の有識者からの助言を積極的に受けて、実験の手法・実験材料や観察対象の育成方法について、研究や改良を行う。
- ・実験を行う授業では、複数の指導者による支援・指導が望ましいため、日常的に担当者間で相互に授業に入り込み、指導方法の研究の機会とする。
- ・大学の研究室訪問（京都大などを予定）
- ・生物オリンピックの出場をすすめる

地学科

本年度の目標

- 1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み
 - ・身近な「不思議」に興味を持ち、そこから沸いた疑問を探求し解決することを楽しみとするような人材の育成を目指す。その補助として、グループワーク（発表含む）、演示実験、実習および問題演習を行う。
 - ・3年生後期にはセンター対策授業を行い、センター試験に備える。
 - ・必修科目ではない地学を知るきっかけとして、1年生を対象に各科目（物理・化学・生物）と地学とに共通するテーマについて各担当教員が講義を行う。その後、グループに分かれて興味を持った内容をポスターにまとめ掲示する。

2 取組みの効果を測定する方法など

- ・提出物に、感想や授業でできなかった質問などを書かせ、理解度や改善点などについて検討する。
- ・生徒による授業評価アンケートにおいて、大半の者が「授業中は集中して話を聞き、学習に取り組んでいる。」と回答する。
- ・現役生のセンター試験の平均点が、全国平均を2割上まわる。

授業公開・・・保護者に対しては、学校設定の公開授業で行う。(5/16～18、9/17・18・21)

教員に対しては、期間・内容にこだわることなくいつでも公開可能である。同じ科目の教員が少ないため、積極的に授業を見てもらい、意見交換できる形にすることが必要だと考える。

研究授業・・・教科で少なくとも年1回研究授業を行う。

その他の取組み・・・他教科・他科目の授業見学を行う。また、他教科・他科目の先生にも授業を見ていただき、意見交流を行う。

年に2回以上、MJS 週間（一部授業の一斉公開・見学期間）を設ける。

保健体育科

本年度の目標

1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

- ・創意工夫の喚起と個々人に応じたフィードバックの徹底(授業ノートの工夫と授業時の声かけ)
- ・個人種目においては、二人組を活用し、相互にアドバイスしあったり、ビデオを撮りあうなどして、能力の向上に意欲的に取り組めるようにする。また集団種目においては、班ごとの組織づくりの体験に留まらないように、教員からも生徒たち自らが課題を解決できるよう促していく。
- ・3年次体育の既習種目については、生徒がリーダーシップを取れるよう指導助言しながら、自主的に計画させ実践させる。そのための基礎的な能力を1・2年次の体育で育む。
- ・保健では授業形態を工夫して、自ら学び発表する面白さを体験したり、学びを深める姿勢を養う。

2 取組みの効果を測定する方法、目標など

- ・生徒の基礎体力の向上を目指して、準備運動や補強運動の充実を図る
(5月と2月のシャトルランと柔軟性の目標平均値5ポイントアップ)
- ・2年保健ディベートと1年保健プレゼンテーションは、授業アンケートで測定(結果の点数化)

授業公開・・・バディシステムを利用し、教科内の教員で授業のない時は自由にお互いの授業見学を行う。(授業見学の目標回数をのべ20回とする。)

- ・見学したときはその都度、後の空き時間に意見交換を行う。
- ・指導に関する資料(授業ノートやスキルテストの内容・評価基準)はICTのフォルダで共有。

研究授業・・・6～9月 2年保健「ディベートマッチャー生涯にわたる健康」

- ・11月 1年保健「環境と健康に関するグループ学習・研究・発表」

その他の取組み・・・

- ・週一度、教科会を開き、生徒情報の共有。
- ・クラブのサポート事業への協力を通じてメディカル面のスキルアップと授業での活用。
- ・スポーツテストの実施とその活動の中での運動部活動生徒のリーダーシップの養成
- ・体育授業における体育委員への指導助言を通して、リーダーシップの育成
- ・クラブのサポート事業およびスポーツテストについては「課題研究」との関連を持たせながら、教材としてブラッシュアップする。

芸術科

本年度の目標

1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

授業において、質の高い芸術作品を実際に演奏したり、鑑賞したりすることによって、芸術作品の持つ高度な内容を直接的に経験させる。

音楽科・・・3月上旬に音楽会を開催する。(立命館いばらきフューチャープラザ)

美術・書道科・・・2月下旬に作品展を開催する。(本校多目的ホール)

教科展への取組みを通じて、自主性・協調性を身につけさせ、バランスの取れた自己表現能力を磨き、グローバルリーダーとしての人格的な基礎を育てたい。

2 取組みの効果を測定する方法など

発表会後に相互評価アンケートを取り、教科で検証後、生徒に返却する。

授業公開・・・年度末発表会に向けた授業の内容で、段階的に充実した内容になると思われる時期を対象にした授業公開を行う。

音楽科—2月初旬(1年2年音楽会に向けての課題練習)

3月初旬(「第九」1年2年合同練習)

美術科—2月初旬(1年—油絵、2年—木工芸作品・自由課題の仕上げ時期)

書道科—後期：2月初旬(1年—創作・一字書、2年—創作・漢詩)

研究授業・・・各教育研究会の各部会に於いて各学校の施設、授業等の見学、意見交換会を実施している。

その他の取組み・・・

音楽 ・音楽教育研究会第2ブロック音楽会(11月上旬)に2年生授業参加

・2・3年生音楽系進学希望者による校内ミニコンサート開催(文化祭参加・2月初旬)

・教員スキルアップとしては、定期的に声楽レッスンを受け、演奏会やコンクール等に参加する。

美術、書道 ・2年の授業課題として高校展、芸文祭参加。全学年授業選抜作品の2ブロック展、茨木地域文化祭への出品等。

・2年選択クラス共同作品の校内文化祭出品等の企画

・教師のスキルアップとしては2ブロック教員実技研修への参加、個展での作品発表を行う。

英語科

本年度の目標

1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

- ・グローバル社会に対応した実践的英語運用能力の養成。

4 技能を総合的に伸ばすことを基本とし、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、エッセイライティング等の活動を通して、思考する力、議論する力、発信する力を養成する。

- ・高い学力の養成。

将来、海外の大学で学ぶことをも見据えた上で、国内の大学進学に対応できる高い学力を養成する。

- ・外部検定試験（4技能統合型テスト）に対応できる英語力を身につけさせる。

- ・読解力の深化と発展的思考力の育成。

速読・精読・音読など、さまざまな「読む」活動を効果的に行うことにより読解力を養い、さらに、その教材のテーマを通して、グローバルな社会問題等について自分の考えを深めさせる。

2 取組みの効果を測定する方法など

- ・GTEC（1年）

- ・少人数展開授業についての生徒アンケート（1・2年）

- ・ディベートの取組みについての生徒アンケート（2年）

- ・授業アンケート（1・2・3年）

授業公開……学校設定の公開授業（5/16・17・18、9/17・18・21）で授業を公開する。

研究授業……2年英語表現：ディベートの研究授業（冬に1回の予定）

2年 English in Action の研究授業（1回の予定）

1年英語表現：英語Sの研究授業（冬に1回の予定）

その他の取組み……

- ・GTECの導入による英語4技能のバランスの測定分析（1年）
- ・各種コンテスト参加奨励、スピーチコンテスト・エッセイコンテスト等
- ・各種英語テスト受験奨励、英語検定・TOEFL・TOEIC・GTEC等
- ・各種国際交流プログラムの参加奨励

家庭科

本年度の目標

1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

主体的な学びを継続するために授業形式にワークショップ・実験実習・外部講師とのコラボ授業等、多様な学びを提供する。言語活動の一環として個人・グループを問わず発表の機会を多く設定し、いわゆるアクティブラーニング・ダイアログの手法を取り入れた授業展開に努める。

2 取組みの効果を測定する方法など

ワークショップを通してコミュニケーションスキルを身につけ、発表等成果については自己評価+相互評価を加え総合的な評価実施。また、相互評価については様々な手法を活用し、時間内に35人の評価（良かったところ・工夫が欲しかったところ・総合点）が手元に届くようにしている。成果は廊下掲示し共有する。事前事後アンケートできるものは計測する。

授業公開・・・教員同士の授業力向上のため原則として全ての授業を公開する。特徴的な取組みについては事前に公文書で全府立学校に案内を出す。対象は府内の教員（家庭科に限らない）、府外の教員（私立公立を問わない）、大学生（学部生・院生）、教員志望者など広く受け入れている。もちろん保護者には校内の公開授業時に見ていただいている。

研究授業・・・

- ・特徴的な授業は指導案を添付し研究授業公開（春・秋）
- ・『この部分の授業を見て研修したい』という要望には丁寧に対応、授業資料なども提供。全てを公開授業とする。

その他の取組み・・・

- ・トップレベルで活躍する各界人の講演会・ワークショップに参加し、スピーディーに授業に取り込む。
- ・各種研修会に参加（家庭科研究会をはじめ、京都グループワーク研究会など）、伝達。
- ・入手した情報（多様なメールマガジン・研究者や日本の伝統を支える職人との交流・書籍案内など）を広報。
- ・学校内外の研修会企画を家庭科の授業手法を使ったコーディネートおよびサポート。
- ・中堅家庭科教員の授業力アップのための研修会実施（土曜日の午後）
- ・地域の教育力を活用した授業展開。また、ネットワーク作り→茨高が地域のプラットフォームになっている。双方向の学びになるよう家庭科が持つスキルの提供（環境ボランティアとして市民への啓発活動を生徒と共に実施（環境フェア：親子でエコクッキング等）、多種多様な市民まちづくり企画に参画・サポート。

情報科

本年度の目標

1 授業力向上、生徒の学習意欲喚起のための取組み

- ・コンピュータ操作においては、誰もが基礎的な能力をよく身につけることを目標とする。さらに、意欲の高い生徒には発展的な内容を学習させて生徒の学習意欲を高める。また、生徒同士での高め合いを推しすすめる。
- ・情報科の社会的な面を学習するにあっては、適宜プリントを配付し、学習における到達目標を明示する。授業後は、担当者でそのプリントの改善点を確認することで授業力向上に資する。プログラミングの学習についても、同様に行う。
- ・インターネットやスマートフォンの普及に対応するため、受信者・発信者双方の視点からメディアリテラシー教育を行う。その際、具体的な事例を通し、身近な問題として捉えさせ、生徒の反応から教員が現状を把握する。

2 取組みの効果を測定する方法など

担当者同士での授業見学、授業アンケートによる評価によって効果を測定する。

授業公開・・・校内で実施している公開授業と同時期に行う。

研究授業・・・適当な時期に研究授業を実施する。

その他の取組み・・・希望者には、情報オリンピックへの参加を呼びかける。